

第 115 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	売掛金	買掛金
仕入	売上	受取手形	支払手形
前受金	前払金	繰越商品	手形売却損
固定資産売却損	固定資産売却益	建物	建物減価償却累計額
未収金	未払金	修繕費	修繕引当金
法定福利費	給料	社会保険料預り金	従業員立替金
売上割引	広告宣伝費	積送品売上	積送品
委託販売	受託販売	支払手数料	受取手数料
販売費	発送費	建設仮勘定	

- かねて松田商店に販売の委託をし、Z 商品 20 個（原価@1,000 円、売価@2,000 円）を積送していたが、本日、そのうち 12 個を顧客に販売した旨の売上計算書を受け取った。なお、売上計算書には松田商店が立替払いした包装費 3,000 円と販売手数料 7,000 円の記載があった。
当店は、委託販売について、積送品勘定を用いて手許商品と区分して処理する方法によって記帳しており、販売時において積送品売上を手取金額で計上するとともに、そのつど販売した積送品の原価を仕入勘定に振り替える処理を行っている。また、松田商店に対する債権債務は、委託販売勘定を用いて処理する。
- 得意先大道寺商店から注文のあった商品（原価 400,000 円、売価 600,000 円）を、本日、船便で同店に送付し、船荷証券を担保として 200,000 円の荷為替を取り組み、割引料 10,000 円を差し引いた残額を当座預金とした。当店は、商品の発送時に売上を計上している。
- 当期期首に、建物（取得原価 1,000,000 円、残存価額 100,000 円、耐用年数 9 年、定額法により償却、間接法により記帳）の修繕を行い、代金 300,000 円は小切手を振り出して支払った。なお、このうち、200,000 円は建物の耐用年数を延長する効果があると認められた。修繕引当金の残高は 80,000 円であった。
- 社会保険事務所に従業員の社会保険料 200,000 円を現金で支払った。なお、このうち半分は当社が負担し、残りの半分は従業員が負担している。従業員の負担分は、すでに給料の支払時に支給額から差し引いてある。
- インターネット広告の代金を支払う目的で振り出す予定の小切手 200,000 円が、本日（決算日）現在、未渡しであることが判明した。なお、当社は、小切手の作成時点において当座預金勘定の貸方に記入している。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	委託販売	14,000	積送品売上	14,000
	仕入	12,000	積送品	12,000
2	当座預金	190,000	売上	600,000
	手形売却損	10,000		
	売掛金	400,000		
3	建物	200,000	当座預金	300,000
	修繕引当金	80,000		
	修繕費	20,000		
4	法定福利費	100,000	現金	200,000
	社会保険料預り金	100,000		
5	当座預金	200,000	未払金	200,000

・解説

1. 特殊商品売買の委託販売&荷為替手形に関する問題です。このような問題は取引の種類ごとにひとつずつ仕訳を切っていくと分かりやすいのでおすすめです。

まず、商品を積送したときの仕訳です。問題文に「委託販売について、積送品勘定を用いて手許商品と区分して処理する方法によって記帳」とありますから、仕入勘定を積送品勘定に振り替える仕訳を切ります。

☆参考・商品を積送したときの仕訳

(借) 積送品 20,000 / (貸) 仕入 20,000

次に、売上計算書を受け取ったときの仕訳です。問題文に「販売時において積送品売上を手取金額で計上するとともに、そのつど販売した積送品の原価を仕入勘定に振り替える処理を行っている」とありますので、手取金額で積送品売上を計上するとともに、積送品の原価を仕入勘定に振り替える仕訳を切ります。

■手取金額＝総売上金額－諸費用・手数料＝@2,000円×12個－3,000円－7,000円＝14,000円

■積送品原価＝@1,000円×12個＝12,000円

★解答①・・・売上計算書を受け取ったときの仕訳

(借) 委託販売 14,000 / (貸) 積送品売上 14,000

★解答②・・・積送品勘定から仕入勘定へ振り替える仕訳

(借) 仕入 12,000 / (貸) 積送品 12,000

最後に、本問では問われていませんが、積送品売上を総額で計上する場合の仕訳も押さえておいてください。上記の②の仕訳は総額でも手取額でも変わりませんが、①の仕訳が変わってきます。

☆参考・積送品売上を売上総額で計上した場合の【解答①】の仕訳

(借) 委託販売 14,000 / (貸) 積送品売上 24,000

(借) 積送諸掛費 10,000

特殊商品売上の委託販売に関する問題は、第102回の間1や第108回の間2、第117回の間5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

2. 荷為替手形に関する問題です。荷為替手形とは、遠隔地に商品を販売し、商品の運送を運送業者に委託した際に、売主が代金の早期回収を実現させるために、商品と引き換えに運送業者から受け取った貨物代表証券（商品の引換券）を担保にして、取引銀行を受取人・買主を名宛人として振り出す為替手形をいいます。

荷為替手形の基本的な流れを時系列に沿ってまとめると以下のようになります。売主・買主・取引銀行・運送業者の四者が出てきます。

- ①売主が運送業者に商品の発送を依頼し、商品と引き換えに貨物代表証券を受け取る。
- ②売主は代金の早期回収を目的として、貨物代表証券を担保に、取引銀行を受取人・買主を名宛人とする為替手形を振り出して、そのまま割り引く。
- ③取引銀行は回収業務の危険回避のために売上代金の全額ではなく、70%～80%程度の金額を売主が指定する口座に振り込む（残額は売掛金として処理されることが多い）
- ④取引銀行は買主に対して手形引き受けの呈示を行い、買主から引き受けがなされた際に売主から担保として受け取っていた貨物代表証券を買主に引き渡す。
- ⑤買主は貨物代表証券と引き換えに運送業者から商品を受け取る。

本問は、問題文に「船荷証券を担保として 200,000 円の荷為替を取り組み、割引料 10,000 円を差し引いた残額を当座預金とした」とありますので、上記でいう②の取引を聞かれていることになりま
す。ここでは、売上 600,000 円を荷為替取組分の 200,000 円と掛売上分の 400,000 円とを分けて考え
ていきましょう。

■荷為替取組分の 200,000 円

売主は貨物代表証券を担保に、取引銀行を受取人・買主を名宛人とする為替手形を振り出して、そ
のまま割り引くことにより、手形代金から割引料を差し引いた金額を受け取るようになります。

★解答①

(借) 当座預金 190,000 / (貸) 売上 200,000

(借) 手形売却損 10,000

■掛売上分の 400,000 円

こちらに関しては普通に掛売上を認識するだけですので、特に問題はないと思います。

★解答②

(借) 売掛金 400,000 / (貸) 売上 400,000

上記の①②の仕訳をまとめると解答になります。荷為替の問題については苦手意識を持っていらっ
しゃる方が多いですが、仕訳問題だけでなく第 3 問の総合問題での出題もおおいに考えられますので、
この論点は【暗記】ではなく必ず【理解】するようにしてください。

荷為替手形に関する問題は、第 101 回の問 2や第 110 回の問 3、第 117 回の問 5、第 118 回の問 3、
第 122 回の問 2でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 固定資産の改良と修繕に関する問題です。改良と修繕に関しては、①修繕のみを問われる問題と②
改良と修繕の両方を問われる問題の 2 つに分けることが出来ますが、本問は②のケースに該当します。

それでは早速、考えていきましょう。改良と修繕の両方を問われた場合は、耐用年数を延長させたり、
その価値を高めるような支出（資本的支出）については、固定資産の帳簿価額に当該事実を反映

させるために資産の増加として処理し、定期修繕など建物の諸機能を維持するための支出（収益的支出）については、当期の費用として処理することになります。

本問は、問題文に「200,000円は建物の耐用年数を延長する効果があると認められた」とありますので、当該200,000円の支出を資本的支出として処理することになります。

★解答①・・・改良

(借) 建物 200,000 / (貸) 当座預金 200,000

残りの100,000円(=支出総額300,000円-資本的支出200,000円)については収益的支出として処理・・・したいところですが、本問は前期以前に計上した修繕引当金が80,000円ありますので、足りない分の20,000円について修繕費を計上して費用処理することになります。

★解答②・・・修繕

(借) 修繕引当金 80,000 / (貸) 当座預金 100,000

(借) 修繕費 20,000

以上の①②の仕訳をまとめると解答になります。なお、問題文の「取得原価1,000,000円、残存価額100,000円、耐用年数9年、定額法により償却、間接法により記帳」はダミーデータですので、ひっかからないように気をつけてください。

固定資産の改良と修繕に関する問題は、第100回の問1や第102回の問4、第110回の問1、第111回の問5、第119回の問2、第123回の問5、第124回の問1でも出題されていますので、併せてご確認ください。

4. 社会保険料の納付に関する問題です。まず、問題文に「従業員の負担分は、すでに給料の支払時に支給額から差し引いてある」とありますので、当社は従業員に給料を支払った際に、従業員が負担すべき社会保険料100,000円を預かっていたことが分かります。

☆参考・従業員に給料を支払ったときの仕訳

(借) 給料 ***** / (貸) 社会保険料預り金 100,000
(貸) 現金など *****

上記の仕訳を踏まえたうえで、今回問われている【社会保険料を納付したときの仕訳】を考えてい

きます。従業員から預かっていた 100,000 円分については、社会保険料預り金勘定を減額させるとともに、会社が負担すべき社会保険料 100,000 円については、法定福利費勘定を使って費用処理することになります。ちなみに法定福利費とは、福利厚生の一環として社員が納付すべき社会保険料のうち、会社負担分をいいます。

★解答・社会保険料を納付したときの仕訳

(借) 社会保険料預り金 100,000 / (貸) 現金 200,000
(借) 法定福利費 100,000

社会保険料の納付に関する問題は、第 106 回の間 3や第 107 回の間 3でも出題されていますので、併せてご確認ください。

5. 銀行勘定調整表に関する問題です。銀行勘定調整表は見た目がややこしいので、苦手意識を持っている方も多いようですが、ひとつひとつに分けて考えていくと意外に簡単に解くことができますので、根気強く取り組むようにしてください。

なお、本間は 1 つの取引しか出てこないのですが、第 111 回の間 5では 2 つの取引、第 123 回の間 1では 3 つの取引が出てきて若干ややこしいですので、本間を解いた後に併せて確認しておいてください。

ではさっそく問題を解いていきましょう。問題文に「インターネット広告の代金を支払う目的で振り出す予定の小切手 200,000 円が、本日（決算日）現在、未渡しであることが判明」とありますが、これはいわゆる「未渡小切手」というやつです。

小切手を振り出し、支払いが完了したものとして処理していたが、実は先方に小切手を渡しておらず、金庫の中に小切手が眠っていたので当座預金の減少を取り消すとともに、広告宣伝費の未払いについては未払金勘定を使って処理することになります。

☆参考・既に切っている仕訳

(借) 広告費 200,000 / (貸) 当座預金 200,000

★解答・未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金 200,000 / (貸) 未払金 200,000

ちなみに、買掛金について未渡小切手があった場合には未払金勘定ではなく買掛金勘定になります

ので、間違えないように注意してください。

☆参考・既に切っている仕訳

(借) 買掛金 200,000 / (貸) 当座預金 200,000

☆参考・未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金 200,000 / (貸) 買掛金 200,000

銀行勘定調整表に関する問題は、第100回の間4や第101回の間1、第105回の間4、第111回の間2、第113回の間4、第116回の間5、第123回の間1でも出題されていますので併せてご確認ください。最近は、以前に比べると出題頻度が低くなっていますので、過去問レベルの問題が解ければ十分だと思います。